

FES(Food Education Supporter)～食育応援隊～

代表者：農学部地域総合農学科 3年 柴田 咲季

連携先

JA 水郷つくば 阿見支店営農経済課
阿見小学校
阿見第一小学校
阿見第二小学校
本郷小学校
あさひ小学校
君原小学校
舟島小学校

顧問教員

安江 健（農学部・教授）

参加者

柴田 咲季（農学部地域総合農学科・3年）
吉富 瑠夏（農学部地域総合農学科・3年）
飯田 彩名（農学部食生命科学科・3年）
永井 幸奈（農学部食生命科学科・3年）
相馬 尚実（農学部地域総合農学科・3年）
竹中 彩（農学部地域総合農学科・3年）
長島 彩奈（農学部地域総合農学科・3年）
金子 琴音（農学部地域総合農学科・3年）
兼子 理梨（農学部地域総合農学科・2年）
渡辺 恵里花（農学部地域総合農学科・2年）
永尾 美紗登（農学部食生命科学科・4年）
杉原 ほのか（農学部地域総合農学科・4年）
石倉 未悠（農学部地域総合農学科・4年）
鬼澤 彩乃（農学部地域総合農学科・4年）
木村 玲司（農学部地域総合農学科・4年）
小林 由莉（農学部地域総合農学科・4年）
成嶋 緑（農学部地域総合農学科・4年）
堀池 志帆（農学部地域総合農学科・4年）

松浦 拓哉（農学部地域総合農学科・4年）
森山 光（農学部地域総合農学科・4年）
草谷 奈津子（農学部実践農食科学修士2年）
黒沢 まりな（農学部実践農食科学修士2年）
酒井 円香（農学部実践農食科学修士2年）
宮田 海（農学部実践農食科学修士2年）
渡邊 明花（農学部実践農食科学修士2年）

プロジェクトの概要

●背景

阿見町では、町教育委員会と JA 水郷つくばにより、町内の小学校に対し食育事業が行われていた。この活動に2014年度～2016年度までは有志の学生が自費で支援を継続し、現在まで食育事業を継続できたという背景がある。そして2017年度からは有志の学生が増え、更なる参画ができると考え、本プロジェクトに応募し、採択された。私たちは、主体的に小学生との交流活動を行うことで、食育活動の継続と発展を目指している。

●目的

茨城大学農学部キャンパスがある阿見町の7つの小学校で、小学生の食育活動を支援する。将来を担う子供たちの食および茨城大学、地元への関心を高めることで、阿見町の発展に貢献することを目的として活動している。

●食育への思い

私たちの活動は、実際に小学生とふれあ

いながら農業の楽しさや食の大切さを学ぶきっかけづくりが出来ることを強みとしている。

農村の高齢化・過疎化、農業の後継者不足など様々な課題が発生している中で、一人でも多くの児童に「食」や「農業」、また「阿見町」の魅力を感じてもらいたいという思いで活動している。また、小学生は未来を担う宝であり、FESの活動が将来の阿見町の活性化に繋がるということで、提携先のJA水郷つくばの職員様や小学校の先生方も、熱意をもって協力、支援して下さっている。

●活動内容

コロナ禍前までは、小学校での主な活動として、

- ①授業サポート
- ②農業についての授業・農作業
- ③食に関する広報誌の作成・配布を行っていた。

本年度は、新型コロナの影響から、

- ①食に関する広報誌の作成・配布
- ②農業についての授業・農作業サポートを中心に活動した。

プロジェクトの成果報告

●今年度の活動および成果

- ①食に関する広報誌の作成・配布

FESでは毎月、提携先の7つの小学校へ向けて「もぐもぐ通信」という題で、食や農業に関する広報誌を作成・配布し、小学校の各クラスに掲示していただいている。本誌の作成にあたっては、カラフルな色でまとめたりイラストを多用したりすることで、低学年の子供たちにも楽しく読んでもらえるように内容やデザインを工夫した。



図1：「もぐもぐ通信（2021年9月号）」

本年度は、この広報誌の作成・配布が活動の中心となった。そして、この「もぐもぐ通信」を来年度以降より良いものにしていくために、以下のようなアンケートを実施し、その結果をまとめた。

〈アンケート結果（教員16名）〉

(1)「もぐもぐ通信」を通じて、児童の皆さんは食への興味関心が高まりましたか？（※「まん延防止等重点措置」期間中のアンケート実施により、担任の先生方による任意回答）

➡多くの先生方から、ほとんどの児童の食への興味関心が高まっていたとの回答があったが、中にはクラスの半数以上の児童が食への興味関心を実感していないという回答もあった。

(2)担任の先生からの視点で、児童の皆さんの食への興味関心は高まったと感じますか？（選択回答式）

➡9割を超える先生方から、児童の食への興味関心が高まったと感じたとの回答があった。

(3)「もぐもぐ通信」の内容で面白かったものは何ですか？（順位回答式）

- ➡ 1位 クイズ、なぞなぞ
 - 2位 食にまつわる豆知識
 - 3位 季節のイベントや行事について
- クイズなどの内容が面白かったという意見が多かった。

(4)今後、「もぐもぐ通信」に取り上げて欲しい記事は何ですか？(選択回答式・複数選択可)

➡頻繁に掲載している「イベントや行事における食文化」についてのリクエストが最も多かった。その他、これまであまり掲載したことのない「食材の調理法やおいしい食べ方」や「農産物の栽培方法」についてなどのリクエストもあった。

(5)その他、「もぐもぐ通信」に対するご意見・ご要望はありますか？(自由回答)

➡“児童はもちろん、担任も大変勉強になっています。”“掲示の場所を工夫したり、子供たちに読んであげるなどアピールしたりすることを積極的に行うようにします。”といったありがたいご意見を数多くいただいた。

ーアンケートの結果を踏まえてー

面白かった内容として「クイズ、なぞなぞ」の回答が多かったことや、今後取り上げてほしい記事として、頻繁に掲載している「イベントや行事における食文化」についてのリクエストが最も多かった他、あまり掲載したことのない「食材の調理法やおいしい食べ方」や「農産物の栽培方法」についてのリクエストもあったことから、今後はイベントや行事における食文化を中心に、これまで掲載したことのない記事も掲載していこうと思う。また、低学年から高学年ま

で全ての児童に本誌を楽しく読んでもらえるように、引き続き、イラストを多用したりクイズを取り入れたりすることで、内容の工夫にも努めていきたい。

さらに、“「もぐもぐ通信」の配布する時期を早めると、子供たちの食への関心がより高まりそう”というご意見をいただいたことから、来年度からは、前の月の末までに各小学校へ本誌の作成・配布が完了できるように、団体としての体制を整えていこうと思う。

②農業についての授業・農作業サポート

提携先の JA 水郷つくばの職員様と共同で、君原小学校でのサツマイモ収穫作業のサポートや、阿見第二小学校でのレンコンの授業と茨城大学農学部との紹介などを実施した。



図2：小学校での農作業サポートの様子



図3：小学校での授業の様子

コロナ禍であることから、小学生とふれあいながら食育活動を行うことは難しくなりましたが、小学生の真剣に授業を聞く姿や一生懸命農作業に取り組む姿を見て、さらに食育活動に励んでいきたいと感じた。

●今後の展望

今年度も昨年度に引き続きコロナ禍であったことから、直接小学生とふれあいながらの食育活動が思うように出来なかったが、来年度は新型コロナウイルス感染症の状況を見つつ、可能な限り活動の幅を広げていきたい。

また、食育活動の継続はもちろん、向上のためには周囲の方々の協力が不可欠であるため、お世話になっている方々への感謝の気持ちを忘れずに、阿見町の食育応援隊として今後も食育活動に励んでいきたい。